

内視鏡施行患者の苦痛緩和のための一考察

鹿 郷 栄 子, 山 口 成 子
 宇 田 洋 子, 久 保 田 とし子

動 機

近頃、消化器系疾患における、内視鏡検査も、ますます重要性をおび、当院においても年々、件数の増加傾向にあります。内視鏡は、今日では医師の診断の手段のみではなく、直接患部の治療の分野へと、多岐に渡り、複雑化しているようです。私達看護婦としては、それらの医療器械の整理点検はもとより、検査を受ける患者さんに、なるべく苦痛を少なく、安全に、また、医師がスムーズに検査出来るようにと思い、頑張っております。

しかし、実際には極度の緊張と不安をもって、検査をうける患者が多く、ファイバースコープ挿入時に困難を伴う事も稀ではありません。

原因は、それぞれあると思われませんが、それらを緩和するための方法として、アンケートを取り、一つの前進になればと思い、まとめてみました。

方 法

期間 昭和55年9月12日～10月15日

対象者数 105人

内訳 { 男 82人
 女 23人

期間内に、検査を受けた患者全員であるが、救急患者、容態不良患者、再検患者（期間内の）等は除外。

- I あなたは、なぜ今回、内視鏡検査を施行しましたか。
- イ 外来で胃の透視の結果、すすめられた。
 - ロ 自分で希望した。
 - ハ 経過観察のため。
 - ニ 他医に紹介された。

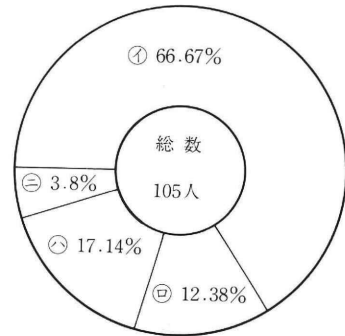


表 I-1

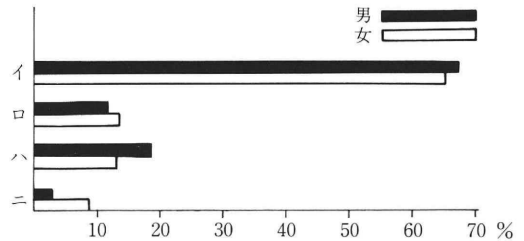


表 I-2

表 I-1, I-2 でみる通り、全体の約 2/3 が①でしめられている。胃の透視をする人が多くなっている傾向と一致している。また、10人に1人位の割合で、③がある。自分の健康に対する自覚をもつ人が増えて来ているのでしょう。

II 今まで、この検査を何回うけましたか。

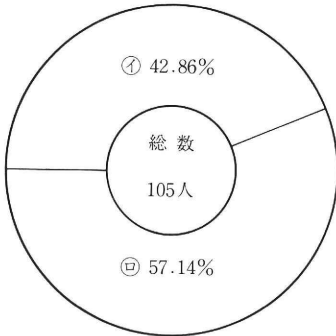
イ 一度も、やった事がない。

ロ 内視鏡検査をうけた事がある。

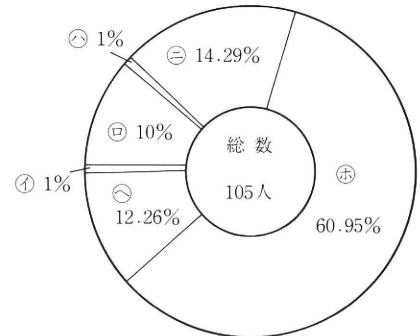
表 II-1, II-2 を参照。

半数以上が、受検したことがあると答えております。更に、①の人に対して、次のような質問をしてみました。

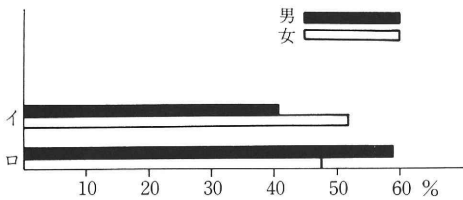
- ・内視鏡という言葉を身のまわりで聞いた事がありますか。



表II-1



表III-1



表II-2

はい……64% いいえ……36%

- 聞いた時、どう思いましたか。
- 1 ひどそうだ。
- 2 自分はやりたくない。
- 3 結果が心配だ。

等で最初から、何らかの不安をもっているようです。また、内視鏡で経過観察を受けている人の回数を問うと、次のようです。

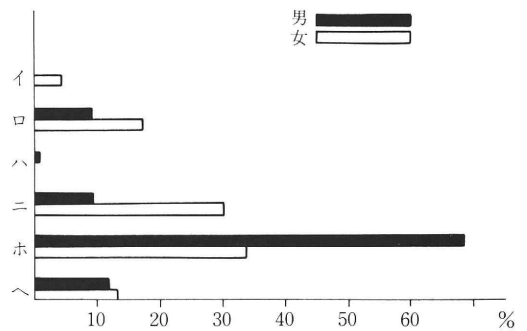
13回… 1人 10回… 2人 6回… 3人
 5回… 3人 4回… 4人 3回… 7人
 2回… 17人 1回… 13人

等で、毎回受検するたびに、楽になるというのではなく、その時の状態に応じて、いろいろと相違が出てくるという事でした。

最初に受検者に説明する段階で、何かの方法で少しでも不安の除去が出来ないものかしらと、考えさせられました。

III 前回、内視鏡の受検者に対して。

- イ 注射のあと、腫れた。
- ロ のどの痛みが、しばらくとれなかった。
- ハ 尿が出にくかった。
- ニ 気分が一日中すぐれなかった。
- ホ 何ともなかった。



表III-2

へ その他。

表 III-1, III-2 を参照して下さい。

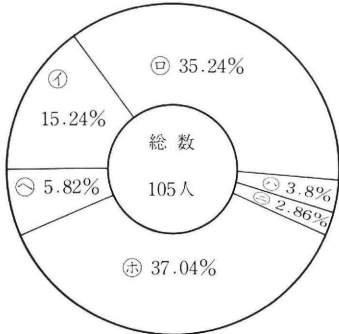
全体の2/3が㊦である。次に㊤, ㊢, ㊡と続いている。前日夕よりの、検査に対する不安と、前処置による注射等が原因としてあげられよう。その他の項目に、患者より次のようなものがあげられた。

- 1 眠かった。
- 2 口腔内が麻痺して、思うようにしゃべれなかった。
- 3 胸が苦しかった。
- 4 気分を楽にして、リラックスした方がよいと思った。

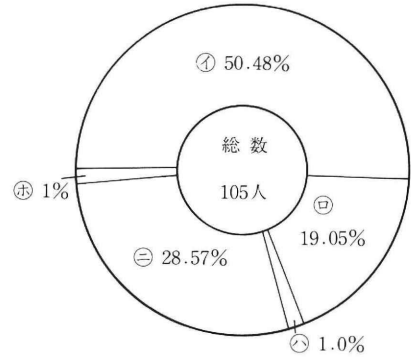
等である。

IV 内視鏡検査をするようにいわれた時、あなたは、どう思いましたか。

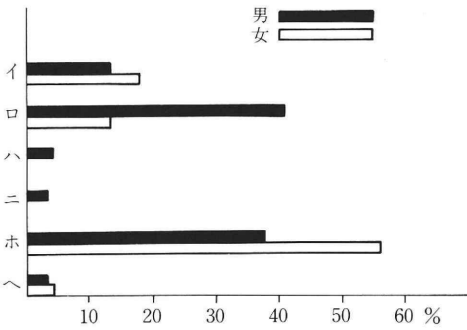
- イ 痛みはないのか。
- ロ 苦しくはないのか。
- ハ 失敗した場合。



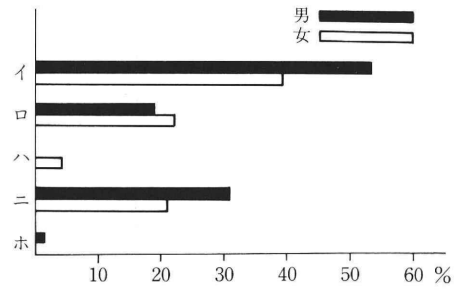
表IV-1



表V-1



表IV-2



表V-2

- ニ 医師に対して。
- ホ 結果に対する不安。
- へ その他。

表IV-1, IV-2を参照して下さい。

㊦, ㊫は、同種の問いで、全体の50%以上を、占めている。㊩, ㊪が少ないのは病院、医師に対する信頼感があるからと、思われます。㊫が多いのは、当然かもしれませんが、不安や緊張をもたらす大きな原因と思われます。特に、女性に多いのは、“もし入院”という事にでもなれば、家族、その他に直接的に影響をおよぼすためでしょう。

㊩としては、次のようなものがありました。

- 1 医師を信頼しているので、大丈夫。
- 2 痛みの原因が判明すればよい。
- 3 体力に対する不安あり。
- 4 治っているか、否か、心配だ。

等で、積極的な中でも、不安はかくせないようです。

V 検査終了後、どう思いましたか。

- イ 思ったより、苦しくなく、ホッとした。

- ロ とてもひどかった。
- ハ ますます、不安になった。
- ニ 検査内容をくわしく説明してもらった方がよかった。
- ホ 何も説明されないで検査した方が、よい。

表V-1, V-2を参照して下さい。

㊦, ㊫が多いのは、事前の検査内容の説明不足があると思われる。前処置をする時にある程度の検査内容を説明するのだが、それだけでは、不十分なのでしょう。これが解決出来れば、緊張緩和の大きな助けとなる事でしょう。これからのためにもよい方法を考えたいと思います。

㊫のひどかった理由としては、

- 1 吐気がした。
- 2 胃の中が痛かった。
- 3 のどに、つかえるような気がした。

等でした。

VI 音楽が流れていましたが、部屋の雰囲気はいかがでしたか。

- イ とてもよい。

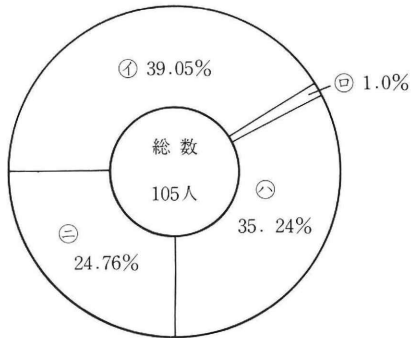


表 VI-1

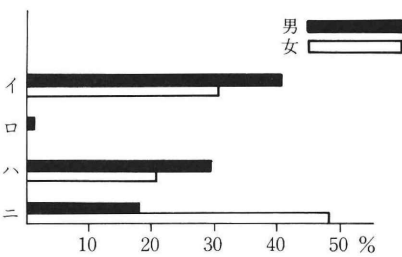


表 VI-2

- ロ うるさい。
 ハ 感じない。
 ニ 気分が和む。

表 VI-1, VI-2 を参照して下さい。

①, ③は同種の質問であるが、両方で、全体の2/3以上を占めている。②は内視鏡室の事情もあり、音楽を流しているのが小さなラジオ1個であるため、騒音、雑音等で聞こえないという事もあるし、また、“検査を受けるのに夢中で、耳に入らなかった”という事もあると思われます。

しかし、患者さんには好評で、スピーカーのようなものがあれば、と思いました。また、忙しさにまぎれて緊張しがちな、私達スタッフにも思わぬ効果があり、好評のようです。

VII その他、お気づきの点がございましたら御記入下さい。

- イ 検査内容を、くわしく説明してほしい。
 ロ 数人一緒に検査出来るので、心強かった。
 ハ 先生はじめスタッフの言動が、とてもよく、信頼して検査をうけられた。
 ニ 所要時間が短いので、この辺をアピール

してはいかがでしょうか。

- ホ カメラがもっと細かったら、のみ易いのでは、と思った。
 ヘ 器械・設備に感心した。定期的に検査をうけたいと思った。
 ト 医師と看護婦のコンビネーションがよく、検査終了までの過程が、迅速、機能的で、ゆったりと安心して検査出来た。
 チ 苦しくない器械を發明せよ。

等があげられ、私達にも、参考になる意見もあり、これからのために役立てたいと思っております。

考察とまとめ

どのような検査をされるか、また、検査方法をくわしく知らずに来院するための不安と、検査結果に対する不安とが交錯して、心理的に重圧となっているようです。外来や病棟において、ある程度の説明はなされるのですが、患者さんにとっては、不十分なのでしょう。胃の透視の結果、内視鏡をすゝめられるケースが多いので、その点に留意する必要がありますと思われる。実際に検査結果がはっきりする一週間というものは、“大変悩む”という事をよく耳にします。

どのような検査においても同じような不安を抱いて、患者さんは来院する事と思います。特に内視鏡の場合は、不安や緊張が強度となりますと、より一層の苦痛を伴いがちです。このアンケートを通して、私達はどのように方向づけて行ったらよいか、幾分なりとも判ったような気がします。外来という制約された時間・環境で、どの程度まで出来るか、スタッフのこれからの課題と思います。

終りに

初めての事で、不十分で物たりない所も多々ある事と思います。また、統計・グラフを活用出来なかった部分もある事と思いますが、私達一同これらを参考に頑張っていきたいと、思っております。

御協力下さいました先生、皆様に感謝致します。

(昭和56年3月10日 受理)